



2015年7月25日

セミナー「子どもの貧困／不利／困難を考える」

# 開会にあたって

同志社大学 埋橋孝文

# 第1部は縦糸、 第2部は横糸

## 第1部

「貧困／不利／困難に負けない力（レジリエンス）」と自己肯定感

## 第2部

「子どもの貧困への多様なアプローチ」

# 科研プロジェクト（貧困に対する子どものコンピテンシーをはぐくむ福祉・教育プログラム開発、2011～2013年度） の概要

- (1) マクロとミクロ、福祉と教育を架橋する
- (2) 「橋」として「貧困／不利／困難に抗う力（レジリエンス）」を想定
- (3) 「子どもの貧困」をめぐる福祉・教育実践の「目的」と「対象」
- (4) コンピテンシーではなくレジリエンス概念に注目（当初＝科研申請時はコンピテンシー）
- (5) 批判、論争を呼び起こすと考えられる点（地雷）
  - ①親の貧困と子どもの貧困を区別（child's perspective）
  - ②「貧困／不利／困難に負けない力（レジリエンス）」という考え

# 論点

(1) 問題の解決は原因あるいは経路に働きかけるべきであって、貧困による不利／困難を引き受けざるを得ない子どもに働きかけるのは筋違い？

(2) 貧困家庭の子どもへの働きかけはありえないのか？

(3) 「貧困／不利／困難に負けない力」を対象と目的に。

(4) コンピテンシーVS. レジリエンス その違い

レジリエンス

リスク要因⇒環境要因と個人要因

防御要因 ⇒環境要因と個人要因